

# 完了後の評価個表

整理番号	12-1
------	------

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	山口県
ふりがな 地域(地区)名	<small>しゅうなん</small> 周南地区	事業実施主体	山口県、周南市、下松市、 周南森林組合等
関係市町村	周南市、下松市	管理主体	周南市、下松市、周南森林組合等
事業実施期間	H14 ~ H18 (5年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 本地区は、山口県の東南部に位置し、周南市、下松市の2市にまたがっている。その区域は、県土12%に当たる74千haの行政区域を有し、このうち森林面積は、県森林面積の12%に当たる55千haである。 地形は、地域の北部に西中国山地の山々がそびえ、その麓には鹿野盆地、八代盆地等の盆地を有し、瀬戸内海沿岸には、周南平野等が広がる。また、北部の急峻な山地に源を発する錦川等の河川が瀬戸内海に至っている。</p> <p>② 森林の現況 当地区の森林面積は54,647ha、そのうち人工林が25,671haで47.0%を占めており、間伐等の森林整備が必要となる3齢級(15年生)から8齢級(40年生)の森林が7,993haで約31.1%を占めている。 また、地区内の森林のうち、水源涵養保安林が6,045ha、土砂流出防備保安林が3,119haに指定されており、約92%が水土保持林に区分されている。このため、森林の有する水源涵養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区においてはこれまでに25,671haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くは保育・除伐及び間伐等が必要な段階にある。森林所有者等の森林整備に対する意欲の低下が懸念される中で、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する期待が高まっていたところである。 また、当地域には森林整備を効率的に実施するための基幹となる林道等の路網が未整備であったことから、森林施業の遅れが目立っていた。 このため、森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、森林整備を実施するとともに、その手段となる施業の必要な森林への到達時間の短縮、労働力や資材の効率的な移動等により林業労働の軽減及び森林施業コストの低減を図り、適切な森林整備を促進することを目的に、旧鹿野町大字鹿野上と旧鹿野町大字大潮を連絡する線形で林道を整備したものである。</p> <p>(事業概要)</p> <p>居住地森林環境整備 <small>しゅうなん</small> 周南地区 間伐等 2,840ha</p> <p>森林基幹道整備 <small>ただけ</small> 高岳線 車道幅員 4.0m 開設延長 1,676m 利用区域面積 1,277ha</p> <p>総事業費 1,809,148千円 (当初総事業費 1,715,000千円)</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成24年度時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。 当初計画に対し、事業計画を見直して区域の拡大及び事業量の増加を行ったため、総便益及び総費用が増加した。</p> <p>総便益 (B) 24,698,487千円 (事業採択時 4,842,919千円) 総費用 (C) 3,552,768千円 (事業採択時 1,153,765千円) 分析結果 (B/C) 6.95 (事業採択時 4.19)</p>
-------------------------	--

② 事業効果の発現状況	<p>森林整備は1,642haの除間伐が実施され、森林の持つ公益的機能が維持増進された。 林道整備により、施業地までの到達時間の短縮及び作業コストの低減が図られ、着手前5年間の造林面積3haに対し、完了後5年間は23haとこれまでの7.7倍に増加した。</p>
-------------	--

③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>当事業で整備された森林は、周南森林組合により間伐等が適切に実施され、良好な維持管理状態にある。 県による整備後は、周南市が定めた林道維持管理規程に基づき管理されている。 当事業で整備された森林は、森林組合等が適正な管理をしており、整備後の林況や施設の維持管理は良好である。</p>
---------------------	---

④ 事業実施による環境の変化	<p>適正な森林整備が実施され、森林の景観が向上した。 林道整備により、森林施業地までの到達時間の短縮等により林業従事者の労働条件の改善が図られ、間伐が進むなど、森林所有者の森林施業に対する意欲が向上している。 林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>周南森林組合が当地区内の森林整備を担っており、間伐を中心とした森林生態系の保全に配慮した適切な管理・経営が行われている。 林道の整備により、労働強度の軽減や大型トラックの通行が可能となり、作業コストの低減により林業生産性の向上が図られた。その結果、利用間伐が積極的に行われるようになった。</p>
⑥ 今後の課題等	<p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の意見： 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。（周南市） 林道の開設後は、沿線の小溪流等への散策へ訪れる者の増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。（地元）</li> </ul>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 利用区域内の森林面積（人工林）うち40年生以上の面積が平成10年度の117ha(12%)から、平成20年度は408ha(42%)と増加しており、木材の伐採・搬出作業の効率化がますます重要となっている。林業生産性の向上・森林の適正な管理及び山村地域の振興を図るため、計画的な路網整備を推進する必要がある。また、本地区へのアクセス道路の内、芋掘地区には現在まで迂回路となる道路がないため、災害時の避難路の役割を担う路線として整備する必要がある。地元の意見にも見られるとおり、当事業の施工後は、土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与するなど、当事業の効果が発揮されていること。森林の整備及び基盤となる路網の整備が総合的に実施されていること。 以上のことから、事業の必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性： 森林整備及び林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれていること。 林道が災害時の迂回路としても機能していること。 森林整備により、森林の景観が向上してきていること。 以上のことから、事業の有効性が認められる。</li> </ul>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名:森林居住環境整備事業

都道府県名:山口県

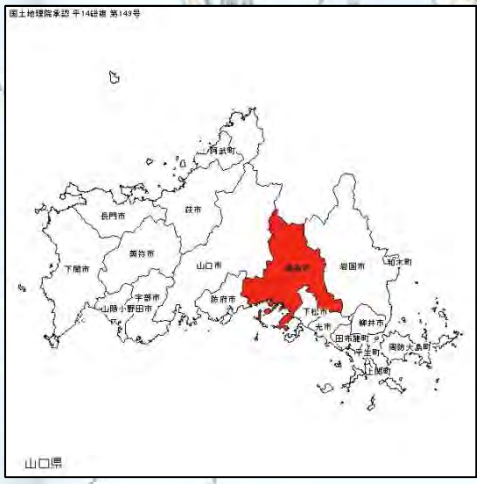
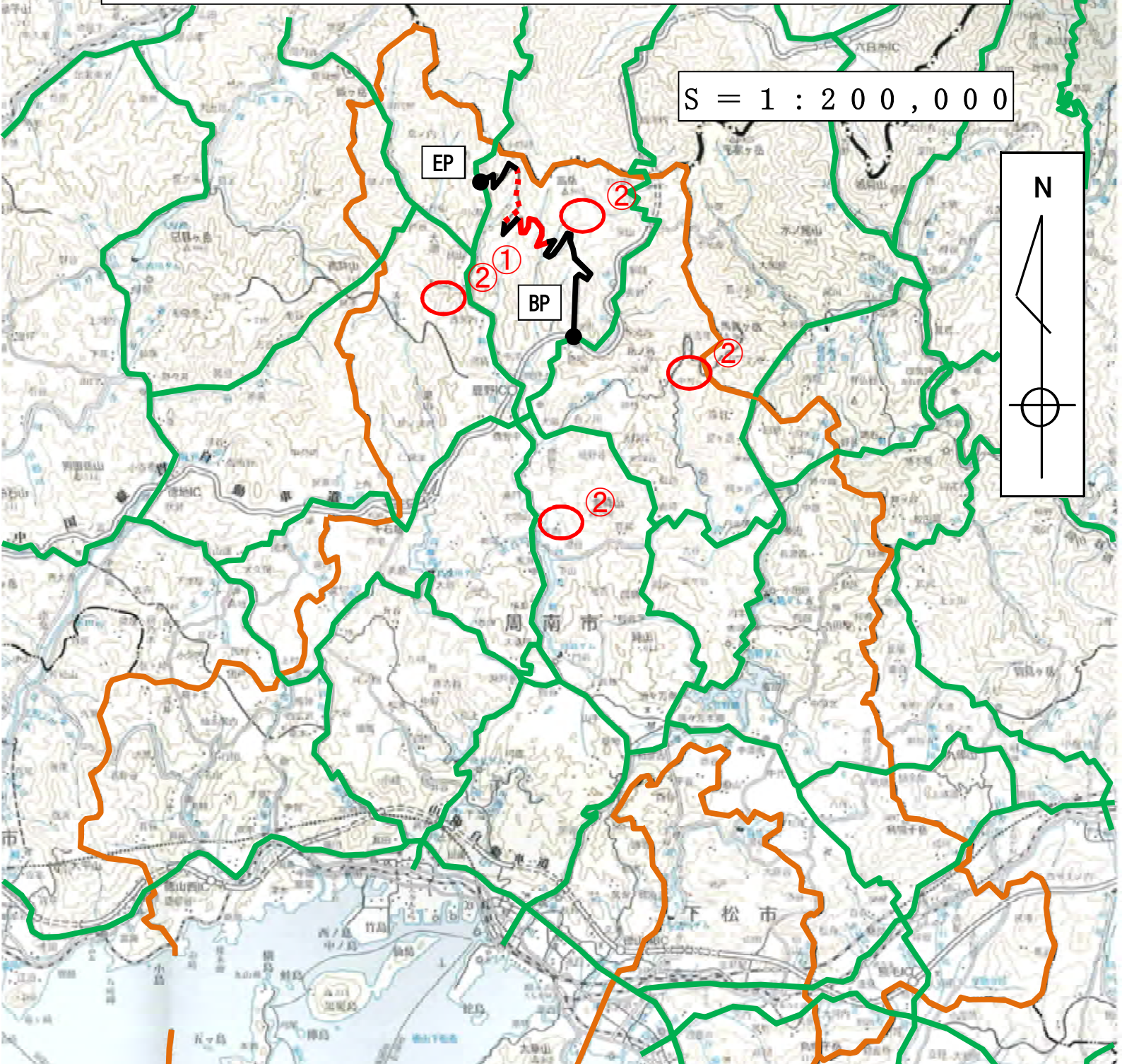
地域(地区)名:周南地区<sup>しゅうなん</sup>

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	8,355,750	
	流域貯水便益	2,370,701	
	水質浄化便益	5,623,948	
山地保全便益	土砂流出防止便益	6,684,600	
	土砂崩壊防止便益	42,607	
環境保全便益	炭素固定便益	214,238	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	8,062	
	木材利用増進便益	27,309	
	木材生産確保・増進便益	110,858	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	5,755	
	治山経費縮減便益	30,340	
	森林管理等経費縮減便益	1,457	
	森林整備促進便益	1,129,728	
一般交通便益	走行時間短縮便益	7,295	
	走行経費減少便益	481	
森林の総合利用便益	ふれあい機会創出便益	7,582	
災害等軽減便益	災害時迂回路等確保便益	88	
	災害復旧経費縮減便益	1,112	
維持管理費縮減便益		76,576	
総 便 益 (B)		24,698,487	
総 費 用 (C)		3,552,768	
費用便益比	$B \div C = \frac{24,698,487}{3,552,768} = 6.95$		

# 森林居住環境整備事業 周南地区(山口県)概要図

S = 1 : 200,000



凡 例	
	区 域
	主要国道・主要県道
①	施工箇所番号
●	起点・終点
	施工箇所
既設 施工 計画	

## 周南地区(平成14年度～平成18年度)

①	森林基幹道 高岳線
②	居住地森林環境整備